

東日本ユニオン TOKYO

2019年度夏季手当

JR東日本労働組合東京地方本部

発行責任者 郷 重雄



発 行 教宣部

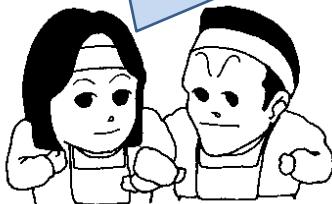
2019年6月4日 NO. 93

第1回団体交渉開催！

5月31日、本部・本社間で「2019年度夏季手当」の第1回団体交渉が開催されました。交渉では、組合側から要求の趣旨説明を行い、経営側からはそれに対する現状認識が示されました。

満額回答は十二分に可能だ

- 2018年度期末決算は連結で3兆円を超え「過去最高」。社員が汗した結果である。
- 株主配当が75円から82.5円に上げられるが、労働者への投資も不可欠である。
- 組合員、社員の中には、成果に対して報われない事で、不満・不安が広がっている。モチベーションの低下は事故・不祥事の原因になりかねない。



世の中と比較しても 既に十分高い水準に達している

- 今年度(2019年度)の決算見通しは全て減益となる見込みである。
- 景気動向指数など楽観視できる状況にない。消費税引き上げの影響もある。
- 「新幹線鉄道大規模改修引当金」が毎年240億円発生する。
- 人件費も減少ペースが鈍っており、2023年頃から上昇に転じる。



- 経営側が「先行きは明るい」なんて言ったことはない→“見通しは楽観視できない”は理由にならない。
- “改修費用が発生する”は、既に織り込み済み→これも理由にならない。

経営側が言っているのは、出さないための方便でしかない



出せる時に出さなければ、いつになっても出せない。

要求満額獲得に向け力を合わせよう！